

## 令和2年度 学長戦略経費（公募型プロジェクト）研究成果概要報告書

経費の種類	<input type="checkbox"/> 共同研究推進経費 <input type="checkbox"/> 若手教員研究支援経費 <input checked="" type="checkbox"/> 個人研究支援経費
プロジェクトの名称	「現在未来の言葉の学び・国語の学びのあり方」に関する包括的研究
報告者氏名・所属・職名	菊野雅之・釧路キャンパス・准教授
プロジェクト担当者氏名・所属・職名	同上
研究内容及び成果の概要	
<p><b>【学習過程の明確化をふまえた学習指導略案のフォーマット開発およびモデル作成】</b>          芦野小学校の藤田美奈子教員や帯広の中学校国語科教員らとともに、指導事項が学習過程の並びに配置されていることを受け、単元構想を行う際の指導案略案のフォーマットを共同で開発した。従来の指導案よりも書くべき内容を精選し、作成の手間の削除、伝達内容の精練を図った。加えて、そのフォーマットに基づいた授業構築・単元検討を、藤田教員と今年度は行い、一定の成果を見た。</p> <p><b>【中学校国語科における定期テスト作成過程の方法論の構築】</b>          天塩町立天塩中学校・佐々木来望教員とともに定期テストの改善を通じた授業全体の改善の方法論について検討を行った。ともすれば国語科の定期テストは、直前にノート内容や教師の解釈を暗記し、それを解答欄に書くといったおおよそ、思考力・判断力・表現力を問う問題としては不適切な形式で実施されることが少なくない。これは評価方法についての議論が不十分であること、定期テストの作成方法・評価方法の議論が不十分であることを示している。そこで必要となるのは大きく二つの視点である。指導事項に基づいた問題作成方法の確立。教材発掘・開発の方法・観点の整理である。指導事項に基づいた問題作成については、問題構想表を考案し、菊野・佐々木それぞれが実践を通じてその効果を検証し、その成果を論文として投稿する準備を進めている。また、教材発掘・開発を含めた成果の全容の発表を、書籍として発行する計画が進められており、すでに出版社編集社とのやりとりを終え、執筆段階に入っている。</p> <p><b>【全国大学国語教育学会におけるシンポジウムの企画およびコーディネート】</b>          2021年度全国大学国語教育学会5月オンライン大会において、「国語科教育学は古典の学習をどのように捉えてきたのか」というタイトルのシンポジウムを開催することにコーディネーターとして関わり、準備中である。なお、その旨も論文化される予定である。</p> <p><b>【『古典はなぜ必要なのか』の執筆（初稿校正済み）】</b>          古典学習論の歴史的経緯や今後の新しい学習論の進め方についてまとめた書籍が、二校の段階に入っており、2021年度内には出版されている予定である。</p>	
成果の公表の状況	
<p><b>【著書】</b> なし</p> <p><b>【学術論文】</b>          菊野雅之(2021) 「言葉を何に載せていかに届けるのか—対面・動画・LMS—」 『月刊国語教育研究』          菊野雅之(2021) 「中学校読むこと領域部会」 『令和2年度第75回北海道国語教育研究大会 十勝・帯広大会「研究の足跡」』</p>	
教育現場で活用可能な分野・教材等	
「学習過程の明確化をふまえた学習指導略案のフォーマット開発およびモデル作成」については芦野小学校の校内研修や教師間の情報共有・引き継ぎなどで活用される予定。	
配布又はダウンロード可能な資料	
問い合わせ先	代表者：菊野雅之 電話：(0154)44-3306 FAX： mail：ki.kuno.masayuki@k.hokkyodai.ac.jp